

かすむ

まぶしい

見えにくい



高島から全国の舞台へ (敬称略)

◆JOCジュニアオリンピックカップ2007  
全国ジュニアアスキー選手権大会出場者  
「クロスカントリー」部

- ▲期間 3月14日(水)～3月17日(土)
- ▲会場 妙高高原スキー場(新潟県)
- ▲出場者 松宮幹乗・角一勇樹・角一健斗(以上安曇川中3年)、林美沙希(安曇川中2年)

「アルペン」部

- ▲期間 3月21日(水)～3月23日(金)
- ▲会場 蔵王温泉スキー場(山形県)
- ▲出場者 地村美鈴・齋藤翔子(以上安曇川中2年)、夏目雄大(日本大学山形高校1年)

※高島市出身

◆第29回全国JOCジュニアオリンピックカップ  
春季水泳競技大会出場者

- ▲期間 3月27日(火)～30日(金)
- ▲会場 東京辰巳国際水泳場(東京都)
- ▲出場者 中村海渡(高島小3年)：50m背泳ぎほか2種目  
西川和輝(高島中2年)：400m自由形  
廣本一真(洛南高校1年) ※高島市出身

…200m自由形

◆第79回選抜高等学校野球大会出場者

- ▲期間 3月23日(金)から12日間
- ▲会場 阪神甲子園球場(兵庫県)
- ▲出場者 県立北大津高等学校野球部  
中條 翔(新3年・外野手・新旭町在住)  
岡田有吾(新2年・外野手・新旭町在住)

(市民スポーツ課)



超音波水晶体  
乳化吸引装置

「かすむ」「まぶしい」「明るい」と見えにくい「遠くが見えにくい」「めがねを変えても見えない」こんな症状はありませんか？ もしかすると、白内障かもしれません。

白内障は、60歳代で70%、70歳代で80%、80歳以上ではほとんどの人が持っているといわれ、白内障の多くは、老化現象です。

○白内障って？

白内障とは本来透明な水晶体が濁ってくる病気です。白内障になると曇ったレンズを覗いている感じになってきます。た映像を見ている感じになってきます。一度白内障が始まると、その濁りはメガネでは矯正できません。また、年齢とともに視力低下として進行していきます。白内障の点眼薬はありませんが、治す作用はありません。車の運転を含め、生活に不自由を感じるようになってきたら手術の適応時期と考えてよいでしょう。

○手術も安心です

当院の眼科では、毎週月曜日午後からの外来診療後に白内障の手術を行っています。

最近、この白内障手術で使用する超音波水晶体乳化吸引装置を更新いたしました。この装置の導入により以前に比べ、短時間で手術が終わるようになりました。手術時間は人によって異なりますが15分程度です。手術後は、約2～3日で退院できます。

当院では京大病院からの医師により、年間約130件の白内障手術を行っています。手術を希望される方は月曜日・木曜日(の外来にお越しください)。

(公立高島総合病院 眼科)

市長日記

95歳、3年先までスケジュールが詰まっているといわれる聖路加病院の日野原重明医師が、今津東小学校の子どもたちの願いに添え、「このち」の授業をしてくださいました。寒の戻りに震える学年末にとても嬉しい出来事でした。

この4年生は授業で「十歳のきみへ」九十五歳のわたしから」に学び、感想文を送り、招聘したのだといえます。2分の1成人式にはメッセージが届き、3月14日に特別授業が実現しました。思いを伝え、願いが叶った体験は有り難い必然です。夢は与えられるものではなく、願いは自ら叶えていくものであることを子どもたちは教えてくれています。

学生時代、奥マキノスキー場へ夜行船で来たことから切り出され、これから大人になつていくのだから「もうこれからは嘘をつかないと決心することが大事だ。できる？」とお話には、子どもは正直で「殆ど手が上がりませんでした。」

しかし大事なことは、ちゃんと感じ取っていることが伝わってきます。「いのちは何処にあると思う？」と問われ、子どもが「心臓」と答えると、「心臓はポンプで『いのち』ではない。風が見えないように、大切なものは見えないんだ」と星の王子様を引用して教えて行かれます。「人はいのちを時間という形で使うことができる」「何のため、誰のために使うかが大切なのですよ」と優しくきっぱりと説いてくださいました。95歳の先生と10歳の生徒は、お爺ちゃんとお孫の問合いだつたのかも知れません。最後に「自分のいのちを大切に、他人のいのちも大切に」と、仕返しをしない「怒り」ことを説いて結ばれました。ご著

書では「怒」の字を使っておられます。



さて、安曇川中学校の14期生が「遠慮記念誌」を発刊されました。様々な立場や場で精一杯生きてきた人生を振り返り、お互いを称えあい、そしてこれからの人生を更に信念を持って生きて行かんとする気概が溢れています。中学校卒業時の決意文が挿入されていて、その初々しい思いが人生を貫いてきたことを証しています。仕事一筋の人、少年野球の指導をしながら地域と共に歩んだ人、家族第一に生きてきた人。すぐ傍にも、いのちの先生がいらっしゃいますね。

沖田区が伝統行事や条里制、そして、郷土の記憶を絵図に仕上げ、田女神さんの設えをして、お披露目をされました。そこには誇りと豊かさが滲み出ており、また、どう時が経ったかが如実に現れています。

オジイちゃん、オバアちゃんの記憶や知恵は図書館1館に値すると申します。先日図書館協議会の皆さんと、6館ある利点を最大限に活かして、本に親しみ、日本一本を読むまちを目指そうと話合いました。

見える図書館と見えない図書館に大いに学び、自分のいのちの時間を何に使うかを問うて参りたいと存じます。また、立志祭や2分の1成人式という通過儀礼、田女神さんや春祭りなどの伝統行事などの形と心を真似び、継承していきたいですね。新しい春がきました。

海東英和 拜

※夜行船：かつて琵琶湖には、冬になるとスキー客用の臨時船が夜間運航されていました。



増えすぎた野生獣を  
高島ブランドに  
鹿肉などの料理作りへの挑戦

～鹿肉などの料理作りへの挑戦～



■増える農林業被害

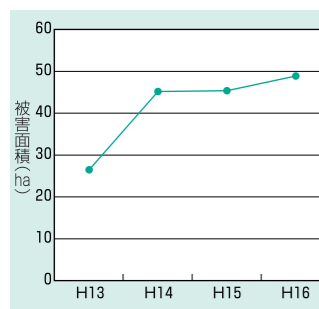
近年増加が著しい野生の鹿などは、農作物の生産などに多大な被害をおよぼしています。その被害を防止するため、市内各所に電気柵などを整備するほか、増えすぎた鹿などを適正数まで減らすと、猟友会の協力を得て有害鳥獣駆除を実施(注1)しています。しかし、農作物や森林への被害は依然増え続けており、こうした被害を減少させるためには、電気柵などの設置や銃器等による駆除のほかに、根本原因の解消を図る必要があります。市も県と連携し新たな防除技術の実証や導入に取り組みほか、集落挙げての追い払い隊の結成や地区住民自らの防除など、集落ぐるみの取り組みに対して支援しています。

■鹿肉などを地域ブランドに

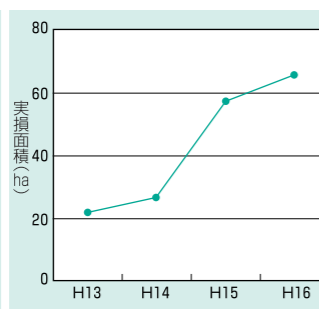
現在市内では、駆除した鳥獣を廃棄処分しています。しかし、狩猟期に獲ったものや駆除したものを有効活用し、食肉として安全に食べられる仕組みをつくるのが、野生獣の適正数維持にも効果を発揮するものと考えています。

こうしたことから、食品衛生協会や滋賀県、本市などが参加して「高島ジビエ(注2)料理促進協議会」が立ち上がり、料理方法を試みる講習会や先進市

●シカの農業への被害(高島市内)



●シカの森林への被害(高島市内)



(出典：高島市内部資料)

例の研修、鹿肉などの取り扱いのルールの作成など、さまざまな取り組みが進められています。こうして「ジビエ料理」を民宿経営者や食肉販売、狩猟関係者のネットワークの形成により、地域のブランドに育てようとする取り組みも進められています。

(注1) 駆除頭数：鹿422頭、猪38頭(平成18年4月～平成19年2月)

(注2) ジビエ＝狩猟により得られた鳥獣肉のこと